

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590101093		
法人名	社会福祉法人 正和会		
事業所名	ケアコンプレックス高清水 認知症対応型グループホーム1丁目		
所在地	秋田市土崎港南3丁目13-44		
自己評価作成日	令和6年12月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和7年1月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様との対話を大切にし、常に入居者様の声を取り入れたサービスの提供に努めている。 ・充実した生活を送ることが出来るよう、入居者様ひとりひとりの嗜好に合わせた余暇活動の提供をしている。 ・安心かつ安全で穏やかな生活を送ることが出来るよう、同グループ内の医療施設や福祉施設と協力体制を取っている。 ・各ユニットでスローガンを決め、それぞれのユニットの特色を活かしたサービスの提供を目指している。 ・感染予防を徹底したうえでの、対面面会を実施しており、家族や知人との関係が途切れないよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員は利用者に寄り添うケアに努め、一人ひとりの生活を大切にしています。法人の総合的なバックアップ体制もあり、利用者、家族が安心できるサービス提供に努めています。地域との繋がりを大切にしたいという思いがあり、開設当初からの目標としていますが、コロナ禍による感染拡大防止のため、未だ交流の機会が少ない状況にあります。施設及びホームの機能を運営推進会議等を通じて積極的に発信していくことで、更なるケアの質の向上に繋げることができるものと思われま。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の運営理念は、常時職員の目に入るところに提示し、確認できるようにしている。	法人の理念とは別にユニット毎にスローガンを設定しています。毎年度、前年の業務を振り返って話し合い、ケアの目標にしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節行事の際、地域のボランティアを依頼し、交流の時間を設けている。	散歩や雪寄せの際には近所の方と挨拶を交わしています。敬老会でのボランティアの余興をととても喜んでくれたこともあり、今後は近隣の環境等を考慮しながら交流の場が増えていくものと思われます。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	感染症対策の為、地域との交流がほとんど行われていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催している。	対面で開催できるようになり、地域の関係者が参加していますが、ホームの課題等の話し合いが十分にできず、会議が運営に活かされていません。	会議の主旨を理解し、話し合いが災害対策やサービスに活かせる有効な機会となるよう進行の仕方に工夫すると共に、会議内容を職員と共有し、運営に活かす取り組みを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	報告事案がある場合、速やかに連絡、相談を行っている。	市の担当職員とは主にメールでやり取りし、連携を図っています。生活保護担当職員、包括支援センターとも協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	毎月勉強会を開き、職員同士で話し合いを行うと共に、その内容を回覧し、意識の統一を図っている。また外部の研修に参加して知識の向上に努めている。	勉強会で適正化委員会の内容を職員に伝えていきます。利用者への言葉遣いや対応を話し合いながら、身体拘束、虐待のないケアに取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員ともに、学ぶ機会を設けることが出来ていない。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時に、家族様へ契約書や重要事項について詳しく説明を行い、理解と納得を図っている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	電話や書面、メール等で、ご家族様からの意見や要望を聞く機会を設け、適切に対応し、運営に反映させている。	家族からの意見、要望等にはその都度適切に対応しており、記録にも残しています。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	毎月のカンファレンスで職員の意見を聞く機会を設けるとともに、ミーティングノートを活用し、些細な事柄でもすぐに話し合える環境づくりをしている。	職員の意見、提案を日々の支援に繋げています。シフトの相談等にも応じ、働きやすい環境づくりに努めています。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秋田市認知症グループホーム連絡会へ会員登録をしており、情報の共有等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	居室担当が中心となり、ご家族様にも協力していただくことで、入居者様のニーズを引き出し、信頼関係を構築できるように努めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様やご家族様と対話の時間を設け、不安や要望をじっくり聞くことで、話しやすい環境作りを心掛けている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が自身で出来るよう、部分的に支援する事で、本人様の出来ることを増やしていけるような関係性を目指している。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に安心していただけるよう、毎月施設での様子を手紙で報告し、希望時は面会や電話で交流を図ることが出来るようにしている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	ご家族様、知人等との関係が途切れる事のないよう、電話や面会の機会を設けている。	馴染みの美容院に出かけたり、帰宅して墓参りや知り合いの方に会う機会もあり、家族に協力を求めながら継続できるよう支援しています。定期的に訪れる移動美容院の方が新たな馴染みになっています。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が円滑に交流できるよう、時には職員が仲介し、共同生活を送ることが出来るように支援している。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後にも、必要に応じて相談を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	常に入居者様やご家族様との話し合いの場を設け、要望を聞くよう努めている。	普段の会話で希望することを聞きだしたり、日常の関わりの中で意向の把握に努め、ミーティングノートで共有しています。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々のコミュニケーションの中で、入居者様からこれまでの生活歴を聞いたり、必要に応じて、ご家族様からもお話を聞いている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	各担当者同士が情報を共有し、話し合いの場を設けることで、ご本人様の意向や要望を取り入れたケアプランの作成を行っている。	担当及び他の職員が意見出し合い、現状に即した介護計画を作成しています。	介護計画に基づいて記録していますが、支援の充実に繋げるために記録の仕方の工夫を期待します。
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録へも、問題点や様子を記録し、ケアプランへ反映している。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症対策の為、地域資源の活用や把握が出来ていない。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	五十嵐記念病院の院長による、月2回の内科往診の他、希望があれば他科受診も行っている。	入居前の医療機関で継続受診している方がいますが、ほとんどの方が入居時に母体病院に変更し、訪問診療を受けています。歯科については訪問診療で対応し、薬局とも連携を図り、適切に医療支援しています。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員への緊急連絡体制は24時間整えられている。小規模多機能型居宅介護の看護職員が、入居者様の状態把握を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	安心して治療に臨めるよう、ご家族様、病院関係者とは定期的に情報交換をしている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、入居者様とご家族様へ、状態が重度化した段階でグループホームに出来ることを説明し、ご意向を伺っている。	家族の希望に応じて支援することにはしています。重度化した場合は法人内での対応も可能であり、家族が安心できるよう支援しています。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	かかりつけ医、訪看の看護師により、予測される急変時の対処法は事前に全職員へ周知している。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力は出来ていないが、BCPを作成し、年2回避難訓練を実施し、全職員が災害時の対応を確認している。また、電気自動車からの自家発電や井戸水の汲み上げ等、設備面も充実している。	近隣の協力を得るのが難しい地域でもあり、夜間の職員が少ない時間帯の避難が課題となっていますが、具体的な避難方法は検討されていません。	火災発生時、利用者を2階から安全に避難させるための具体的な対策を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない声掛けを意識し、職員同士でも注意しあっている。	言葉遣いには特に気をつけており、馴れ合いの態度にならないよう注意しています。トイレ誘導の際には耳元で声かけし、男性職員の入浴介助を敬遠する方にも配慮しています。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の衣類の選択や移動美容室の利用にて、入居者様の嗜好を取り入れた支援を行っている。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材のカットや、味付け、準備や片付け等、出来る範囲で入居者様と一緒にやっている。	洗い物等、できそうなことを利用者に働きかけて手伝ってもらっています。誕生日に食べたいものを聞いたり、バルコニーでお茶をいただいたりすることもあります。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量は毎日記録しており、低摂取時にはご本人様の体調に合わせたもので補食を行っている。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来ない部分を一部介助している。自立している入居者様でも、確実に義歯の消毒が出来るよう、チェックを行っている。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、本人様のパターンの把握に努めている。また、都度話し合いを行い、使用するパッドを変更する等、一人一人に合わせた支援をしている。	適時に声かけ、誘導を行なっています。チェック表を活用して排泄用品の使用について話し合い、一人ひとりの状態に応じた支援をしています。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や果物、食物繊維の多い野菜にて腸内環境を整え、自然排便を促すよう支援している。排便困難時は主治医へ相談し、指示を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者様一人一人の状況や体調に合わせ、週2回ゆっくりと入浴出来ている。	移乗用補助台が設置されていることから安全に浴槽に入ることができ、また、車椅子の利用者も職員2人介助によって浴槽に入ってもらっています。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や十分な睡眠時間がとれるよう、居室内の温度や調光、就寝時の服装等を個々に合わせた支援を行っている。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的、副作用、容量等、入居者様一人一人の状態を職員全員が把握し、主治医や看護と情報共有し、症状の変化の確認に努めている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人一人が楽しみ、集中して取り組めるよう、ご本人様の嗜好を取り入れた余暇活動の提供に努めている。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症が流行していない時期には、ご本人様やご家族様の要望を聞き、外出や外泊に対応している。	散歩や花見に出かけ、受診の帰りにコンビニに寄ることもあり、また、家族の協力も得ながら外出の機会をつくっています。外気浴を兼ねてバルコニーでお茶をいただいたり、雪だるまをつくったりすることもあります。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様や家族様の希望を伺い、相談したうえで、ご本人様が管理できるように支援している。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的な換気や清掃にて、共用の空間だけでなく、個々人の居室も常に清潔を保つよう心掛けている。また、季節感のあるものをフロアや居室内に飾る事で、季節感を感じて頂けるようにしている。	ホールで日中を過ごしていることが多く、居心地良く過ごせるようテレビやソファ等の生活空間の環境を整えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者様同士でゆっくりと談話出来る様、ソファの配置や座席を工夫している。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時やその後からも、馴染みのある使い慣れた家具を居室に配置することで、ご本人様が安心できる環境づくりに努めている。	入居時には馴染みの物の持ち込みを勧めています。室内灯は調光できるようになっており、布団を敷いて休む方もいてそれぞれの利用者が安心して過ごせるよう配慮しています。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札やカレンダー、トイレなどの共用場所には大きな張り紙を貼るなど、日付や場所が分かり易いように工夫をしている。		